

働くことの意義を考える

—何のために学ぶのか、社会に出るまでに中学時代から準備しておくこととは—

経済同友会
林 明 夫

Q1：中学校時代の好きな言葉は何ですか。自己紹介代わりにお話しください。

- (1)「ブルドッグ魂」—食いついたら離すな
- (2)「練習で泣いて試合で笑え」
- (3)「自他共栄」—自分も他人も共に栄えよう
- (4)「学問に王道なし」— There is no royal road to learning. (ゼア・イズ・ノー・ローヤル・ロード・トゥ・ラーニング)

Q2：今、林さんはどのような仕事や活動をしていますか。

- A：(1)開倫塾 塾長(学習サービス、栃木県、群馬県、茨城県)
(2)有朋高等学院 理事長(福島市の私立高校)
(3)宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授(宇都宮市の大学院)
(4)マニー株式会社 顧問、元社外取締役(2004～2010年)
(手術用縫合針製造。本社：宇都宮市。現地法人：ハノイ、ヤンゴン、ビエンチャン)
(5)特別養護老人ホーム清明苑 理事(介護・福祉、足利市)

Q3：働くとは何ですか。

- A：(1)働くとは、お客様の問題を解決すること。
(2)お客様の問題を解決することで、お客様のお役に立つこと。
(3)お客様のお役に立つことで、社会のお役に立つこと。
(4)ですから、「お客様」とは誰か、お客様の抱えている「問題」とは何か、それをどのように「解決」したらお客様や社会の「お役に立つ」ことになるのかを、とことん考えなければなりません。
(5)仕事には「競争相手」が存在します。国内だけでなく、海外の競争相手との激しい競争の中で勝ち残らなければなりません。
(6)仕事にはルールがあります。社会のルールである法律を守り、法律の範囲内で仕事をしなければなりません。ルールの中でのプレイが必要です。
(7)仕事は一人ではできません。「組織」、しくみをつくり上げてみんなと「チーム・プレイ」をしなければなりません。「チーム・プレイ」とは何か。自分のポジションはチームの他のメンバーに頼らずにきっちりと守り抜くこと、他のメンバーのプレイを信頼することです。

Q 4 : 仕事を通して見えてくることは何ですか。

- A : (1)すべての仕事には「社会的な意味、大切さ」、「社会的使命」、「ミッション mission」があるということ。
- (2)会社や、その組織の存続を懸けて、お客様のお役に立つために、社会のお役に立つために仕事を通してしなければならないことがあるということ。
- (3)すべての仕事には「リーダー」が必要であるということ。
- ①会社全体のリーダー
 - ②その職場のリーダー
 - ③1つ1つの仕事のリーダー
- *リーダーとは何か。「後ろを向いたら人がついてくる人」。「最後まで責任をもってものごとを成し遂げる人」。
- (4)よい仕事をするときに大切なのは、「働く喜び(Joy of Work ジョイ・オブ・ワーク)」をもって働くこと。
- (5)高い志(こころざし)をもって「自律的(じりつてき)に行動」することも大切。

Q 5 : 学校での各教科の学習や教科以外の教育活動は、仕事をするときに役に立ちますか。

- A : (1)学校で学習するすべての教科、学校でのすべての教育活動は、上級学校ですべて役に立ちます。社会に出てすべて役に立ちます。仕事をするときにすべて役に立ちます。死ぬまで役に立ちます。
- (2)ですから、すべての教科を熱心に学び、すべての教育活動に熱心に取り組んでください。
- (3)学校の教科書や学校時代に用いた「辞書」や「年表」、「地図」などは一生役に立ちますので、処分しないで一生にわたって繰り返し学び直してください。
- (4)学校時代の友だちは同窓生といって、一生の友だちです。学校の先生は一生の恩師です。卒業しても皆様と友情を育んでください。

Q 6 : 「学力」とは何ですか。「学力」を身に着けるためにはどうしたらよいのですか。

- A : (1)「学力」とは、「学ぶ力」です。「自ら学ぶ力」、「自らの意志で学ぶ力」が「学力」です。
- (2)学力を身に着けるときには、自分は今何をしなければならないのかをよく「自覚」することが大切です。「自覚」こそが学力向上の決め手です。
- (3)「学習の仕方」を身に着けることも大切です。
- ①教科書などを一人で「予習」すること。(「予習の仕方」を身に着ける)
 - ②読んでいてわからないことばがあったら、「辞書」を用いてそのことばの意味を調べる。調べたことばの意味は「意味調べノート」に書き写し、その意味をすべてしっかりと覚え、書けるまでにする。(「辞書の使い方」を身に着ける)
 - ③授業中は手を机の上に置き、先生の目を見てしっかりとお話を聞く。(「授業の受け方」を身に着ける)
 - ④必要なことはすべて「ノート」を取る。授業中に取った「ノート」は、授業終了後、あとで学習しやすいように整理する(「ノート整理」をする)。
*「ノートが取れるのは大切な能力」です。(「ノートの取り方」を身に着ける)
 - ⑤授業終了後は次の3つの練習を繰り返して、その日に学習した「教科書」「プリント・副

教材」「学校の問題集」「授業中のノート」をシミからシミまで正確に覚える。

(ア)「音読練習」(イ)「書き取り練習」(ウ)「計算・問題練習」一練習は不可能を可能にする。

⑥学校の試験の対策の仕方も身に着ける。

*一度やった問題のすべてを何回も繰り返して解き直すのが、よい点数を取るコツ。

⑦この「学習の仕方」は、社会に出て仕事をしたり、新しいことを学んだりするのにとても役に立ちます。

Q7：エーッ、社会に出てからも学ぶのですか。学ぶことは仕事をするときにも必要ですか。

A：(1)社会はどんどん変化し続けます。その激しい変化の中で、お客様の困っていること、解決してほしいことも変化し続けますから、お客様の問題を解決するには「学力」つまり「学ぶ力」を身に着けて学び続けなければなりません。「教育ある人とは学び続ける人」

(2)そのときに役に立つのが、学校で身に着けた各教科の知識や教育的な活動です。「学習の仕方」も役に立ちます。

(3)本当の勉強は、社会に出てからスタートします。学校はその準備段階とすら言えます。

Q8：最後に一言どうぞ。

A：(1)中学生は「読書により思慮深さ(しりょぶかさ)」を身に着けることも大切です。

①ゆっくりと丁寧に読む、「精読」する本は月に1冊。(「古典」や「伝記」と呼ばれる本がお勧めです)

②どんどん読む、「速読」する本は週に1冊。(自分の好きなジャンル<分野>や作家の本をどんどん読む)

・気に入った文章は「書き抜き読書ノート」に書き写し、何回も読み直す。

(2)中学生は「新聞を毎日読み、自分で考える力、批判的思考能力」を身に着ける。

・気になる記事は切り抜き、「スクラップブック」に貼り付ける。

(3)「学校の図書室」「地域の図書館」「大学の図書館」を積極的に活用する。

(4)仕事をするには「5S」も大事。

①「整理」(seiri) 一要らないものを処分する

②「清掃」(seisou) 一処分したあとをきれいにする

③「整頓」(seiton) 一サッと取り出せるように、同じ位置に置く

④「清潔」(seiketsu) 一①～③を保つ

⑤「躰」(shituke) 一他人に言われなくても、自分から進んで行う

*中学校時代から「5S」の「練習」を。

(5)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)。ただし、「健康第一」で。



以上

御清聴を感謝します。

御意見や御質問があったら、遠慮なくどうぞ。

